

## 会員生協だより

### みやぎ生協

#### ● みやぎ生協ボランティアセンター

被災された方々が普段の暮らしに少しでも近づけるようにと、みやぎ生協では仙台・気仙沼・岩沼・石巻で、ボランティアセンターを立ち上げ活動に取り組んでいます。



石巻大橋店にて「お茶会」

ほっとできる場を提供する「ふれあい喫茶」、暮らしに必要なものを提供する「おゆずり会」、子どもと一緒に遊べる「子育てひろば」などを、県内各地の避難所や生協の店舗・集会室で開催しています。「震災以来、初めてゆっくりしたわあ〜。」「子どもが笑いながら走りまわっている姿が見れて嬉しいです。」「食器や衣類など必要なものがいただけてありがたいです。」と大変喜ばれています。今後は仮設住宅などにも拡大し



気仙沼にて「子育てひろば」

ながら、取り組みを継続していきます。

みやぎ生協ボランティアセンターでは、活動していただけるボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。  
(生活文化部次長 須藤敏子)

**お問い合わせ先**

生活文化部 TEL 022-218-5331

### 松島医療生協

#### ● 大震災からの復興をめざして

3月11日午後2時46分から、松島医療生協の「時」は止まっていた。あの日から、100日が経過し、緩やかに「時」が刻み始めています。

あの日、私たちは東松島市野蒜にあった居宅介護支援デイサービス「なるせの郷」が、大津波に襲われ職員3人と利用者12人の大切な命と財産を失いました。同時に、松島海岸診療所(医科、歯科、デイケア)も津波被害(床上浸水)を受け、機能不全に陥りました。

その時から、私たちは大きな悲しみに鞭を打ちながら、医療と介護の事業再開と、組合員さんの安否確認に全力を傾けてきました。更に全国からの支援隊の後押しもあり、避難所への医療支援や被災地支援なども行ってきました。

今、松島医療生協は新たな前進を作ろうとしています。一つは、失った「なるせの郷」の意思を引き継いだデイサービスを松島町に再建する事です。二つに、被害が甚大の東松島市と石



「なるせの郷」震災直後

巻市の組合員への支援と支部活動の再開を、現地の要望を聞きながら現地の仲間と共に、新たな医療生協の運動の構築を作り上げる事です。長い道のりですが、役職員一丸となって頑張る決意です。

(専務理事 青井克夫)

### 東北学院大学生協

#### ● 3.11 震災にあって

今回の東日本大震災は、2010年度の決算で損益が大きく改善され、更に今年度の新学期活動も順調に推移している中での震災でした。

この震災で大学が立入禁止となり、職場を一時失った状態になりましたが、時間制限で入室を許された食堂の厨房を利用しての炊出しや、仮事務所を事業連合内に設けて新入生の住まいの対応等が出来ました。

この間、様々な人や組織に助けられました。情報を絶えず提

供していただき、更に大学のホームページでも生協の情報を組合員に提供してくれた東北学院、仮の事務所を提供し復旧作業にも人を派遣してくれた東北事業連合、不動産斡旋の場所の提供を快く承諾してくれた関係業者。営業再開時には、加入の受付応援や教科書事業の支援で全国からたくさんの生協の仲間が駆けつけてくれました。

大学生協の使命である「協同・協力・自立・参加」を、助けられながら私たち自身が感じ



ることができました。

この経験を活かし、大学への貢献や社会貢献のできる東北学院大生協を目指し、職員一同力を合わせ進んでいきます。

(専務理事 細畑敬子)

### 宮城大学生協

#### ● 新入生を迎える取り組み

宮城大学では3・11東日本大震災の影響により、2011年度入学式が中止となってしまいました。夢と希望を抱きながら宮城大学への入学を準備していた新入生やそのご家族にはさぞ残念

な想いであったと思います。

そんな事態に私たち宮城大学生協では、生協主催で例年実施している「新入生歓迎スタートパーティ（通称 MYU スタ）」を盛大に盛り上げて、中止になった入学式をもカバーしようと考えました。

開催連絡も新入生と接触する機会が少ない中、アパート探しの場面ででの宣伝、オリエンテーション行事内での説明や、ツイッターでの宣伝と、学生委員会総出で宣伝に

あたりました。学生委員自身が被災したり、災害ボランティア活動をしている中、協力しながら計画を進めていきました。

大和キャンパスは4月30日（土）、太白キャンパスは5月7日（土）に開催しました。参加者は昨年を下回りましたが、このような状況のなかでも「学科や学部の壁を越えて友達づくりの第一歩の場」を提供できたのではないかと思います。

(専務理事 井上養明)



太白キャンパスの「MYU スタ」の様子